

トビイロウンカの被害撮影と記録

—デジタルアーカイブでのドローンの基本的な活用—

安藤久夫、進藤広司、川嶋繫勝、
栗本孝平、片桐奈央子、細川季穂 (岐阜女子大学ドローンカレッジ)

1 トビイロウンカの生態

トビイロウンカは、鳥の鳶(とび)によく似た茶色の体をしていることから名付けられたと言われている。秋の収穫近くなった稲田を爆弾の跡のように稲を枯らしてしまい、ひどい時には田んぼを全滅させてしまう。これは江戸時代の享保や天保の大飢饉を起こした原因の一つだとも言われている。当時はトビイロウンカがどこからやってくるのかは分かっていなかったが、近年トビイロウンカは寒い日本では冬を越すことはできず、アジア大陸で冬を越して、毎年6月から7月に日本に飛来することが分かってきた。ウンカ自身は長距離を飛ぶことができないが、ジェット気流に乗って中国大陸から1日か1.5日で飛んでくることが分かっている。

過去には大陸に近い九州・中国地方での被害が多かったが、最近は東海地方にもその被害が及んできた。

農林水産省ではホームページでトビイロウンカ被害の発生予察を公開している(図-3)



図-1 トビイロウンカ (農水省)



図-2 トビイロウンカの飛来経路

2 岐阜市におけるトビイロウンカ被害

筆者らはトビイロウンカの知識に乏しく、近隣の稲田を見て最初は何が起きているのか予想がつかなかった。いまだかつて、このような光景を見るのが無かったからである。（図-3の農林水産省の予察にも岐阜県は入っていない。）珍しい光景を上空から動画・静止画で撮影して記録したのが図-4である。

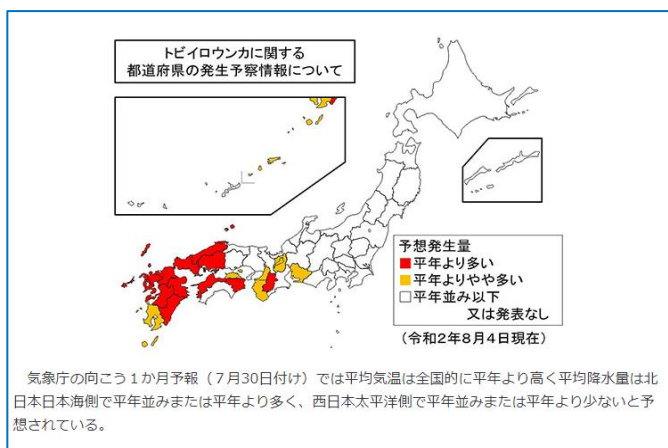


図-3 農林水産省によるトビイロウンカ被害発生予察

2 ドローンによる岐阜女子大学の周辺の被害撮影

この記録写真を岐阜女子大学関係者に見せたところ、大学周辺でも同じ光景が見られるとの情報を得た。早速大学周辺でドローンを飛ばして撮影したのが図-5である。これを他の人に見せたが何の写真か理解できない様子であった。先にも述べたが岐阜県内では過去にあまり被害がなかったからであろう。トビイロウンカは台風が襲来すると風の勢いで吹き飛ばされとも聞く。気候変動もさることながら、2020年は岐阜市周辺に台風の襲来が無かったことも原因と考えられる。このような害虫による被害をいかにドローンで撮影し、デジタルアーカイブとして保管するか検討している。



図-4 岐阜市内のトビイロウンカ被害



図-5 岐阜女子大学付近のトビイロウンカ被害